



## 2020年3月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

2019年10月25日

上場会社名 積水樹脂株式会社  
 コード番号 4212 URL <https://www.sekisuijushi.co.jp>  
 代表者 (役職名) 代表取締役会長 兼 CEO (氏名) 福井 彌一郎  
 問合せ先責任者 (役職名) 執行役員 経営管理部長 (氏名) 菊池 友幸  
 四半期報告書提出予定日 2019年11月8日 配当支払開始予定日 2019年12月2日  
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有  
 四半期決算説明会開催の有無 : 有 (機関投資家・証券アナリスト向け)

上場取引所 東

TEL 06-6365-3204

(百万円未満切捨て)

### 1. 2020年3月期第2四半期の連結業績(2019年4月1日～2019年9月30日)

#### (1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2020年3月期第2四半期	31,206	6.3	4,120	8.4	4,399	7.9	2,916	8.8
2019年3月期第2四半期	29,365	△6.4	3,800	△9.7	4,078	△7.8	2,680	△8.3

(注) 包括利益 2020年3月期第2四半期 3,179百万円 (20.8%) 2019年3月期第2四半期 2,632百万円 (△38.6%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
2020年3月期第2四半期	65.61	—
2019年3月期第2四半期	60.33	—

#### (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2020年3月期第2四半期	126,922	101,766	79.2
2019年3月期	129,351	99,761	76.1

(参考) 自己資本 2020年3月期第2四半期 100,500百万円 2019年3月期 98,500百万円

### 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2019年3月期	—	22.00	—	26.00	48.00
2020年3月期	—	24.00	—	—	—
2020年3月期(予想)	—	—	—	24.00	48.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

(注) 2019年3月期期末配当金の内訳 普通配当22円 創立65周年記念配当4円

### 3. 2020年3月期の連結業績予想(2019年4月1日～2020年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	68,000	1.4	10,300	2.2	10,800	1.4	7,150	1.3	160.85

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 有

(注)詳細は、添付資料9ページ「四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用」をご覧ください。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	2020年3月期2Q	47,313,598 株	2019年3月期	47,313,598 株
② 期末自己株式数	2020年3月期2Q	2,860,916 株	2019年3月期	2,872,090 株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	2020年3月期2Q	44,446,162 株	2019年3月期2Q	44,422,339 株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

(将来に関する記述等についてのご注意)

上記業績予測は本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績につきましては、今後様々な要因によって予測値と異なる可能性があります。なお、業績予想につきましては添付資料3ページ「連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

## ○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報 .....	2
(1) 経営成績に関する説明 .....	2
(2) 財政状態に関する説明 .....	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明 .....	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記 .....	4
(1) 四半期連結貸借対照表 .....	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書 .....	6
四半期連結損益計算書	
第2四半期連結累計期間 .....	6
四半期連結包括利益計算書	
第2四半期連結累計期間 .....	7
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書 .....	8
(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項 .....	9
(継続企業の前提に関する注記) .....	9
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記) .....	9
(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用) .....	9
(セグメント情報) .....	9
3. その他 .....	10
継続企業の前提に関する重要事象等 .....	10

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

### (1) 経営成績に関する説明

当第2四半期連結累計期間におけるわが国経済は、雇用・所得環境の改善を背景に緩やかな回復基調が続きましたが、原材料価格の上昇や人手不足に伴う生産・物流コストの高騰に加え、米中貿易摩擦の激化及び海外経済の不確実性など、経営環境は依然として先行き不透明な状況が続きました。

このような経営環境下において、当社グループの強みである“総合力”や“巻き込み力”を最大限に発揮するべく、事業戦略を確実に実行するための諸施策を推進しております。

当第2四半期連結累計期間においては、自然災害に対する防災・減災や居住地域での騒音対策に加え、交差点・通学路における歩行者の交通安全や高規格道路での逆走防止など、社会の課題解決に向けた付加価値の高い製品の総合提案に取り組んでおります。

一方、原材料価格の上昇に対応した戦略購買を行うとともに、輸送費高騰への対策として物流拠点の見直しをはじめとする配送の効率化を実施するなど、収益性を最重視した事業経営を推進しております。

当第2四半期連結累計期間の業績は、売上高は312億6百万円（前期比6.3%増）、営業利益は41億2千万円（前期比8.4%増）、経常利益は43億9千9百万円（前期比7.9%増）となり、親会社株主に帰属する四半期純利益は29億1千6百万円（前期比8.8%増）となりました。

剰余金の配当につきましては、当社は企業体質強化をはかりながら、株主の皆様への利益還元を充実させていくことを経営の最重点課題と考えており、業績に応じたかつ安定的な配当を基本方針としております。

この方針のもと、中間配当につきましては、10月25日開催の取締役会におきまして連結業績並びに配当性向等を勘案いたしました結果、昨年に比べて2円増配の1株当たり普通配当24円とさせていただきます。

事業の概況は以下のとおりであります。

**交通・景観関連製品**：防音壁材は、更新・修繕需要の増加に加え、新規開通道路向けにも採用され売上を伸ばしました。交通安全製品は、車線分離標「ポールコーン」及び電子システム関連製品が一般道等での受注が減少し前年同期を下回りましたものの、高規格道路における眩光防止板や交差点等でのカーブミラーの需要増加に伴い、堅調に推移いたしました。路面標示材は、ドライバーへの視覚効果による注意喚起を目的とした貼付式路面標示材「ソリッドシート」が高規格道路における逆走防止に採用されるなど、好調に推移いたしました。通路シェルター製品は、新製品「スカイウイング」がバリアフリーに配慮した意匠性を評価され駅前整備やバス停向けに採用されるなど、前年同期を上回る成績となりました。防護柵製品は、施工性の高い歩行者用防護柵「フレックスロープ」が各地の道路改良工事で採用され、大幅に伸ばいたしました。

**スポーツ施設関連製品**：グラウンド用人工芝は、野球専用人工芝が競技に特化した製品の機能性を評価され堅調に推移いたしました。テニスコート用人工芝は、耐久性が評価され更新案件を中心に受注が増加するなど、順調に推移いたしました。

**住建材関連製品**：めかくし扉は、地震によるブロック塀倒壊対策の改修用途として受注が増加するとともに、防音めかくし扉が居住地域などにおける騒音対策に採用され、大幅な売上伸長となりました。メッシュフェンスは、工場・物流施設を中心に需要が増加するとともに、熱中症対策として小中学校のエアコン設置が増加するなか、室外機周りの安全対策に採用されるなど、好調に推移いたしました。一方、装飾建材は、首都圏再開発、マンションの内装工事や訪日外国人の増加を受けて宿泊施設向けは堅調に推移したものの、商業施設向け什器物件の大幅な減少により、売上減を余儀なくされました。

**総物・アグリ関連製品**：梱包資材製品は、原材料高騰に伴う輸入品との競争激化の環境のなか、主力の梱包用結束バンドが国内生産品としての優位性を評価され、前年同期並みとなりました。ストレッチフィルム包装機は、前年同期に集中した全自動機物件減少の影響を受け、大幅な売上減となりました。アグリ関連製品は、獣害対策用途の支柱が市場ニーズに対応した製品提案として好評を博しましたものの、農業・園芸分野ともに、天候不順を原因とする資材全般の需要低迷の影響を受け、前年を大きく下回る成績となりました。

**関連グループ会社製品**：遮熱性舗装は、都市部のヒートアイランド対策として採用され売上を伸ばしました。民間向けサイン製品は、顧客のニーズに対応した製品提案が評価され、前年を大きく上回る成績となりました。デジタルピッキングシステム製品は、ネット通販拡大のなか物流施設での人手不足対策の需要を受け、前年同期を上回る成績となりました。アルミ樹脂積層複合板は、ビル等解体工事向け防音パネルが需要減速の影響を受けたものの、建材用途の受注が好調に推移するなど、前年同期並みに推移いたしました。組立パイプシステム製品は、組立の自在性が評価され、物流分野やイベント関係に採用されたものの、自動車・電機・電子関連の主要ユーザー向けが減少し、前年を下回る成績となりました。

今後の経済情勢は、海外の政治・経済の不確実性や消費増税による景気減速懸念など、経営環境は依然不透明な状況が続くものと予測されます。

このような情勢下、当社グループは、最大の強みである多様なニーズにお応えするための幅広く展開する製品群を活用し、激甚化する自然災害への防災・減災、高齢ドライバーによる交通事故減少に向けた逆走防止や交差点・通学路など歩道への自動車進入防止などの諸対策、人手不足解消に対して施工性の向上、省人・省力化につながる製品など、社会的課題に対して総合力を発揮した提案を推し進めてまいります。一方で、収益性を重んじ経営のより一層の効率化と合理化を推し進めるべく事業の統廃合をはかるとともに、鋼材価格や物流コスト上昇への対応に迅速に取り組んでまいります。

さらには、ESG（環境・社会・ガバナンス）経営を実践し中長期的な企業価値の向上を図るべくグループ一丸となって鋭意邁進してまいり所存であります。

## (2) 財政状態に関する説明

### ①資産、負債及び純資産の状況

当第2四半期連結会計期間末における資産は、前連結会計年度末に比べ24億2千8百万円減少し、1,269億2千2百万円となりました。このうち、流動資産は52億7千1百万円減少し、固定資産は28億4千3百万円増加しました。

当第2四半期連結会計期間末における負債は、前連結会計年度末に比べ44億3千3百万円減少し、251億5千6百万円となりました。このうち、流動負債は45億6千1百万円減少し、固定負債は1億2千8百万円増加しました。

当第2四半期連結会計期間末における純資産は、前連結会計年度末に比べ20億5百万円増加し、1,017億6千6百万円となりました。純資産から非支配株主持分を控除した自己資本は1,005億円となり、自己資本比率は79.2%となりました。

### ②キャッシュ・フローの状況

当第2四半期連結会計期間末における現金及び現金同等物は、前連結会計年度末に比べ15億9千8百万円増加（3.9%増）し、424億7千7百万円となりました。

#### （営業活動によるキャッシュ・フロー）

税金等調整前四半期純利益43億8千1百万円に加え、売上債権の減少等による資金増加の一方、仕入債務の減少及び法人税等の支払を行った結果、54億4千7百万円の収入となりました（前年同期は56億3千4百万円の収入）。

#### （投資活動によるキャッシュ・フロー）

有形固定資産の取得等により25億9千7百万円の支出となりました（前年同期は25億3千6百万円の支出）。

#### （財務活動によるキャッシュ・フロー）

配当金の支払等により12億2百万円の支出となりました（前年同期は10億5千8百万円の支出）。

## (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2020年3月期通期の連結業績予想につきましては、2019年7月29日に公表しました業績予想に変更はありません。

## 2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

## (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2019年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2019年9月30日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	40,879	42,477
受取手形及び売掛金	23,082	17,674
電子記録債権	5,186	3,812
商品及び製品	2,899	2,654
仕掛品	1,414	1,718
原材料及び貯蔵品	2,820	2,813
その他	2,031	1,882
貸倒引当金	△24	△12
流動資産合計	78,290	73,019
固定資産		
有形固定資産	15,059	15,107
無形固定資産	135	137
投資その他の資産		
投資有価証券	14,185	16,882
退職給付に係る資産	191	290
その他	21,634	21,623
貸倒引当金	△146	△138
投資その他の資産合計	35,865	38,657
固定資産合計	51,060	53,903
資産合計	129,351	126,922
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	16,055	12,599
短期借入金	1,300	1,300
未払法人税等	1,976	1,403
引当金	950	766
その他	5,365	5,016
流動負債合計	25,648	21,086
固定負債		
役員退職慰労引当金	112	61
退職給付に係る負債	2,516	2,549
その他	1,312	1,459
固定負債合計	3,941	4,069
負債合計	29,589	25,156

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2019年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2019年9月30日)
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	12,334	12,334
資本剰余金	13,237	13,254
利益剰余金	70,991	72,750
自己株式	△1,954	△1,947
株主資本合計	94,609	96,391
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	3,890	4,187
繰延ヘッジ損益	0	0
為替換算調整勘定	29	△29
退職給付に係る調整累計額	△29	△49
その他の包括利益累計額合計	3,891	4,109
非支配株主持分	1,260	1,265
純資産合計	99,761	101,766
負債純資産合計	129,351	126,922

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書  
 (四半期連結損益計算書)  
 (第2四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年9月30日)
売上高	29,365	31,206
売上原価	20,213	21,417
売上総利益	9,152	9,788
販売費及び一般管理費	5,352	5,668
営業利益	3,800	4,120
営業外収益		
受取配当金	180	198
その他	184	163
営業外収益合計	364	362
営業外費用		
支払利息	25	26
固定資産賃貸費用	20	18
その他	40	36
営業外費用合計	86	82
経常利益	4,078	4,399
特別損失		
固定資産除売却損	26	18
特別損失合計	26	18
税金等調整前四半期純利益	4,052	4,381
法人税等	1,339	1,424
四半期純利益	2,713	2,957
非支配株主に帰属する四半期純利益	33	41
親会社株主に帰属する四半期純利益	2,680	2,916



## (四半期連結包括利益計算書)

(第2四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年9月30日)
四半期純利益	2,713	2,957
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	96	300
繰延ヘッジ損益	0	0
為替換算調整勘定	△184	△55
退職給付に係る調整額	10	△19
持分法適用会社に対する持分相当額	△3	△4
その他の包括利益合計	△80	222
四半期包括利益	2,632	3,179
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	2,605	3,133
非支配株主に係る四半期包括利益	27	45

## (3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年9月30日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
税金等調整前四半期純利益	4,052	4,381
減価償却費	481	533
賞与引当金の増減額 (△は減少)	△189	△113
売上債権の増減額 (△は増加)	6,954	6,777
たな卸資産の増減額 (△は増加)	△486	△72
仕入債務の増減額 (△は減少)	△2,288	△3,584
その他	△1,250	△866
小計	7,273	7,055
利息及び配当金の受取額	213	251
利息の支払額	△23	△28
法人税等の支払額	△1,828	△1,831
営業活動によるキャッシュ・フロー	5,634	5,447
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
有形固定資産の取得による支出	△487	△466
投資有価証券の取得による支出	-	△2,212
短期貸付金の増減額 (△は増加)	△71	117
その他	△1,976	△36
投資活動によるキャッシュ・フロー	△2,536	△2,597
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>		
配当金の支払額	△1,021	△1,155
その他	△36	△47
財務活動によるキャッシュ・フロー	△1,058	△1,202
現金及び現金同等物に係る換算差額	△82	△48
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	1,957	1,598
現金及び現金同等物の期首残高	37,846	40,879
現金及び現金同等物の四半期末残高	39,804	42,477

## (4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)

(税金費用の計算)

税金費用については、当第2四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

(セグメント情報)

I 前第2四半期連結累計期間(自 2018年4月1日 至 2018年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント		合計
	公共分野	民間分野	
売上高			
外部顧客への売上高	12,339	17,026	29,365
セグメント間の内部売上高又は振替高	0	81	81
計	12,339	17,107	29,446
セグメント利益	1,482	2,587	4,070

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)

(単位:百万円)

利益	金額
報告セグメント計	4,070
全社費用(注)	△269
四半期連結損益計算書の営業利益	3,800

(注) 全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない販売費及び一般管理費並びに開発試験研究費の一部であります。

## Ⅱ 当第2四半期連結累計期間（自 2019年4月1日 至 2019年9月30日）

## 1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント		合計
	公共分野	民間分野	
売上高			
外部顧客への売上高	14,030	17,175	31,206
セグメント間の内部売上高又は振替高	0	93	94
計	14,031	17,268	31,300
セグメント利益	1,761	2,686	4,448

## 2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容（差異調整に関する事項）

(単位：百万円)

利益	金額
報告セグメント計	4,448
全社費用（注）	△328
四半期連結損益計算書の営業利益	4,120

(注) 全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない販売費及び一般管理費並びに開発試験研究費の一部であります。

## 3. その他

継続企業の前提に関する重要事象等

該当事項はありません。